

- ① 《特集》 支援者をつながり活動を広げる クラウドファンディング
- ⑩ 《うおろ君の気にな～るゼミナール》
「ダブルケア」って？
- ⑪ 《ヴォロ's トピック》
能登半島地震
初期のボランティア活動の現状と課題
- ⑫ 《実録・市民活動「私のいちばん長い日」》
企業行動憲章が企業の変革を
後押しできると実感できた日
長澤 恵美子（わくわく共創オフィス 代表）
- ⑬ 《東日本大震災 石巻発～現地から伝える「被災地の今」》
私たちが今できること
中川 政治（公益社団法人3.11メモリアルネットワーク 専務理事）
- ⑭ 《V時評》
1.新聞報道を「市民目線」で再構築しよう
2.万博ボランティア、わたしたちはどう向き
合い生かすか
- ⑮ 《毎日NPO！ 山田発信 組織と事業の支援論》
どうするの？ 今どきの情報発信（前編）
山田 泰久（公益財団法人日本非営利組織評価センター 業務執行理事）
- ⑯ 《現場は語る～コーディネートの現場から》
「立教型1dayボランティア」から生まれる「With」
の関係性——学生ボランティアの裾野を広げていくために
齋藤 元気（立教大学ボランティアセンター ボランティアコーディネーター）
- ⑰ 《情報ピックアップ》
- ⑱ 《U35の Social Good》
医療用家系図システム「GenieDraw」
- ⑲ 《この人に》
伴瀬 萌さん（映画プロデューサー）
- ⑳ 《アゴラ／シネマ／ライブラリー》
古本 冬營舎／『フジヤマコトントン』／書籍紹介
- ㉑ 《晴れ時々ボランティア》
北井 康弘さん（地域多文化ネット「WKY」 代表）



じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

共同募金は、地域をつくる市民を応援していきます。

例えば……

地域で、子育てのお手伝いをしたり、
悩んでいるお母さん、お父さんの
相談にのる活動や、障がいのある人が、まちで幸せに暮らせ
るお手伝いをする活動や、地域で、1人暮らしや寝たきりの高齢者
に、栄養の整った食事を届ける活動や、地域に住むみんなが「安心・安全」に
暮らすための活動や、

地域のいろいろな活動のために役立てられます。

- 今年度は前年度に引き続き、中央共同募金会の全国共通助成テーマである「つながりを
たやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」に重点を置き、つながることをあきらめ
ず、感染症防止策を講じながら工夫して行っている活動や、悩み葛藤しながら活動し
ている仲間たちの交流を図るなど、withコロナ、ポストコロナに向けた社会づくりへの支
援など先進的な事業を「重点助成テーマ」として福祉活動の支援を行ってまいります。
- 国内で大きな災害が発生した時は、共同募金は都道府県域を超えて、被災地で被災した人
たちを助ける活動の支援も行います。
- 寄付金には、税の特典があります。会社など法人の寄付金は、全額損金算入できます。個
人の寄付金は、所得税の所得控除または税額控除、住民税の税額控除の対象になります。



赤い羽根おおさか

www.akaihane-osaka.or.jp/

募金の使いみちはすべて、ホームページに掲載されています。

映画『百姓の百の声』上映時の交流が実現
(5～6 ページ、提供＝農山漁村文化協会)



初のクラウドファンディングでデジタルリマスター。
回顧上映会も盛況 (5 ページ、提供＝民族文化映像研究所)



クラウドファンディング 支援者とながり活動を広げる



スマホで作ったサイトで寄付を募りカレー店を開店。工事も支援者と
(7～8 ページ、提供＝HAGI)

国内クラウドファンディングで集まった寄付の最高額は、国立科学博物館の9億1602万5千円。寄付者は5万6584人にのぼる。昨年末に流れた「9億円達成」のニュースに驚いた人は多いだろう。

市民団体でもクラウドファンディングで想定以上の支援を集める例がある一方、「うまくいかなかった」「よく分からず踏み込めない」という声も聞く。クラウドファンディングサービスの選択と利用のポイントは何か、支援者とながり活動を広げるためにどうすればいいか。市民活動におけるクラウドファンディング活用を、あらためて考えたい。

【特集チーム】

青山 織衣、早瀬 昇、村岡 正司、百瀬 真友美



カンボジアの学校にトイレ棟を寄贈 (7 ページ、提供＝民族センター)

わかるようにでわからない!? クラウドファンディング超入門

かまくらさちこ株式会社代表取締役／認定ファンドレイザー 鎌倉 幸子

日本におけるクラウドファンディングは2011年3月にREADYFOR（レディーフォー）が、6月にCAMPFIRE（キャンプファイヤー）がサービスを開始。近年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたさまざまな業種がクラウドファンディングを活用したため市場が大きく広がった。またNPO・NGOの挑戦で1億円を超えるプロジェクトも現れている。

ただ、「具体的にどうやってらよいのか」「安全なのか」と不安に思い、足踏みをしている団体も多いのではないだろうか。

私は21年より現在まで、100件近くのクラウドファンディングの実行者をサポートし、累計の支援金額は約4億円となっている。本稿は10年以上の経験から、初心者の方々に伝えたいことをまとめたものである。

「クラウドファンディングとは」

クラウドファンディングとは、不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語である。つまり、不特定多数の人たちから資金を調達することが、クラウドファンディングの定義となる。

さまざまな類型があるが、市民活動をしている人が主に使うのが「寄付型」と「購入型」である。

- ・寄付型……支援者からの支援を「寄付金」として受け取る。リターン（支援者への「お返し」）は市場で販売されていない対価性のないものに限り設定可能。

- ・購入型……支援者にモノやサービス、体験や権利などのリターンを販売する。

他に、出資者に事業業績に応じた配当が分配される「投資型」、非上場株式を購入でき配当や売却益をもらえる「株式型」、投資家から資金を募り、その資金を利用して不動産の取得・運用

を行い、発生した利益を投資家に分配する「不動産型」などがある。

「プラットフォームの選び方」

現在、クラウドファンディングサービスを提供している「プラットフォーム」は数十社を超える。クラウドファンディングに挑戦したい実行者からの質問で一番多いのが「どこを使えばよいか」だ。もっとも、プラットフォームでないとクラウドファンディングができないわけではない。自団体のウェブサイトを活用し自前で行うところもある（7～9ページ）のだが、システムの検討やデザインなどをする人材がない団体は既存のプラットフォームを使うのが一般的である。

各プラットフォームには特徴があり、その特徴に関連したプロジェクトが多く集まる（左ページ表を参照）。プラットフォームを選ぶうえで考慮する点は以下の通りだ。

■類似プロジェクトの多さ

どのクラウドファンディングのサイトでも、検索ボックスがついている。ここに挑戦したい内容のキーワードを入れて検索すると、終了したものも含め、類似のプロジェクトが出てくる。私がサポートするときは、類似のプロジェクトが多いところを候補としている。

支援をする人は必ずプラットフォームに会員登録をするのだが、その際に、リターンの送り先となる住所やクレジットカードなどを登録する人が多い。一度登録したら、以後情報を再入力する必要がないので簡単に支援が行えるようになる。類似のプロジェクトが多いということは、その分野に関心がある支援経験者が多く集まっているはずだ。プロジェクトを見つけて支援してくれる人が増える可能性が高い。

■All In or All or Nothingか

All InとAll or Nothingのいずれにするかも、プラットフォーム選択の基準の一つとなる。二つの違いは以下

【図表1】プラットフォームの例と特徴・手数料（2024年1月時点）

プラットフォーム	特徴	All or Nothing か All In か	手数料
READYFOR (レディーフォー)	社会課題解決や文化の継承など公共性の高いプロジェクトが多い	All or Nothing（税制上の寄附金控除の適用対象である団体と上場企業のみ All In を利用可）	シンプルプラン 12% フルサポートプラン 17%
CAMPFIRE (キャンプファイヤー)	音楽、本・漫画、アート、映画、プロダクトなどさまざまなジャンルのプロジェクトがある	All or Nothing か All In かを実行者が選択可能	17%
CAMPFIRE for Social Good	社会課題の解決を支えるため2023年よりスタートした、寄付に特化したプラットフォーム	All or Nothing か All-In かを実行者が選択可能	0%（支援金額の12%＋消費税は支援者が協力金としてサポートする仕組み）
For Good (フォーグッド)	“社会をより良くしたい”という思いを誰でもアクションに変えられるよう、ソーシャルグッドに特化したクラウドファンディング	All In のみ	0%（システム利用料200円（税別）＋クレジットカード会社への決済手数料5%（税別）を支援者がサポートする仕組み。プロに相談して進めたい場合、集金金額の5%が手数料となる）
Syncable (シンカブル)	3500の団体が登録している非営利団体に特化した寄付プラットフォーム	All In のみ	11%（寄付者が任意で手数料を肩代わりできる機能あり。支援者自身が手数料をサポートする・しないを選べる）
congrant (コングラント)	NPOの寄付型クラウドファンディングに特化したサービスを提供	All In のみ	3.5%（スポンサー企業のYogiboが手数料分を負担するGIVING100に採用されれば、手数料が0%となる）
Makuake (マクアケ)	プロダクト、ファッション、アート、音楽などクリエイティブなプロジェクト	All or Nothing か All-In かを実行者が選択可能	20%（決済手数料込み）
MotionGallery (モーションギャラリー)	映画などクリエイティブな活動	All or Nothing か All-In かを実行者が選択可能	10%（手数料5%＋決済手数料5%。プロダクション・ファンディングを採用かつ目標金額に到達しなかったプロジェクトは20%）

の通りだ。

- All In……クラウドファンディングの終了時、目標としていた金額に達していなくても、集まった支援額からプラットフォームへの手数を引かれた分が入金される。
- All or Nothing……クラウドファンディングの終了時に目標額に到達しなかった場合、不成立となる。支援者からの支援申し込みはキャンセル・返金されるため、実行者には1円も入ってこない。

たとえばAll Inの場合、100万円の目標のところ最終的に50万円しか集まらなくても、50万円から手数料が引かれた額が受け取れる。All or Nothingは、100万円目標のところ99万円で終わったとしても、目標には達していないため0円となる。All or Nothingにもメリットはあり、チームや支援者が一丸となり目標に向かうムーブメントが生まれやすい。

CAMPFIREは、実行者がAll InかAll or Nothingを選ぶこととなる。READYFORは原則All or Nothingだが、税制上の「寄附金控除」の適用対象である団体はAll Inが使える。

■ **手数料の違いをどう考えるか**

クラウドファンディング会社への

手数料は異なるので、負担の度合いを確認して選ぶケースもある。ただ、安いからいというわけではない。READYFORのフルサポートプランのように経験を有するスタッフが期間中マンツーマンでサポートしてくれるのは、初めて挑戦する人にとってはありがたいサービスである。したがって、サービスの内容と合わせて検討したい。また、不定期だが手数料が低くなるキャンペーンが行われることもある。

手数料は変更されることもあるため、最新の情報は各プラットフォームのサイトで確認してもらいたい。

「ページづくりのポイント」

クラウドファンディングに挑戦する実行者が、ページづくりの際に悩んでしまうポイントをまとめた。

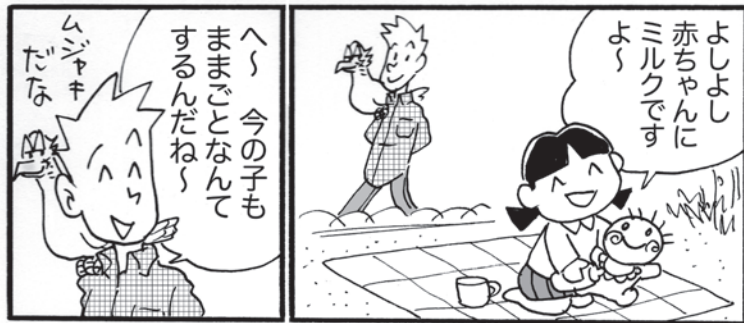
■ **目標金額の考え方**

目標金額の設定の時に考えるべきなのが、目標金額を達成したらプロジェクトが行えるのかどうかという点である。新型コロナウイルス感染症が拡大した時期、ある食堂が店舗維持のためにクラウドファンディングに挑戦。1000万円を調達したがリターンとして高級肉を付け、クール宅急便など

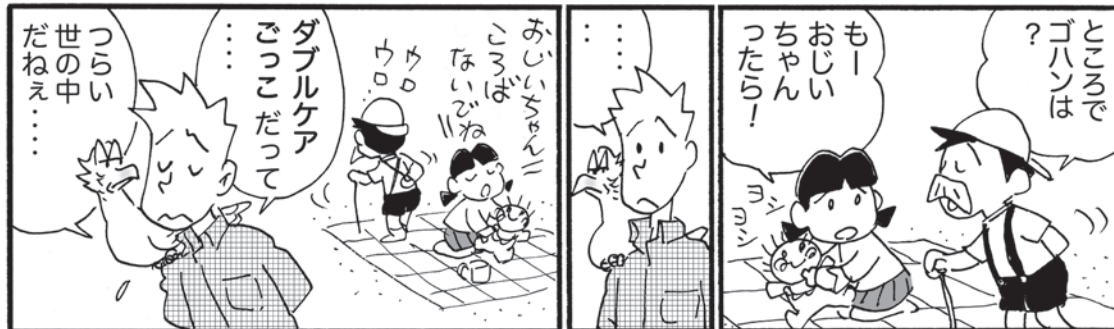
うおろ君の 気にな〜る ゼミナール

Vol. 134

「ダブルケア」って？



まんが ■ ラッキー 植松



ダブルケアとは、一人あるいは一つの世帯が同時期に育児と親の介護を行っている状態を指す言葉である。そうした状態は昔からあったが、近年、急速に注目されるようになった。少子化により家庭内でのケアの担い手が減少していること、晩婚化・晩産化により育児の時期が後ろにずれて親の介護の時期と重なり始めていることなどが背景となっている。

かつては「多重ケア」などと呼ばれることもあったが、相馬直子・山下順子両氏が共同研究を進める中で「ダブルケア」という用語が作られ定着していった。なお、親の介護以外にも、おじ・おば・配偶者など親密な関係にある人の介護を含める場合もある（広義のダブルケア）。

内閣府調査（注）によれば、ダブルケアの当事者は30〜40代が多く推計25万3千人とされる。女性は男性の2倍、離職者も女性が圧倒的に多く、女性に負担が偏っている実態がある。

従来の家族介護者への支援は行政の縦割りによる支援のため、ダブルケア当事者にとっては使いにくいものだった。育児と介護の異なるニーズを同時に満たすためには、自治体における包括的な相談窓口や多機関・多専門職間の連携体制が不可欠である。また、NPOによる地域での当事者支援の取り組みも期待されている。

編集委員 筒井のり子

ヴォロ・バインダー、 いかがでしょうか？

ヴォロ2年分(12冊)を
挟み込めるバインダー
(1冊500円+送料350円)です。
お問い合わせはヴォロ編集部/office@osakavol.orgまで





これからの社会を担う35歳以下の社会起業家。素直な思いと自由な発想は、どんな商品・サービスを生んだのか。若き起業家たちの「物語」には、きっとあなたにも伝わる「熱さ」があります。

U35の
Social Good

第41回

医療用家系図システム ジニードロー 「GenieDraw」

プラクス株式会社 代表取締役 **坂上 博俊さん**

大阪市北区天満橋 3-3-5 天満インキュベーションラボ

電話：06-6360-9269 設立：2017年9月 スタッフ数：2人

10年後、1億人に予防医療を提供することを目指し、新たな遺伝情報プラットフォーム「医療用家系図システム」を研究・開発している。医療用家系図システムを通じて、血縁関係のある個人間の遺伝情報共有を促し、「一家に一つ医療用家系図」を作成できる環境をつくることで、個人・家族・医療関係者のさまざまな負担の軽減、疾患の早期発見・治療につなげ、健康に生きられる社会をつくることを目指している。

“医療への恩返し” 1億人の予防医学を実現するために

小耳症によるいじめから救ってくれた「医療」への恩返し

大阪市北区のプラクス株式会社で代表取締役として医療研究・開発をしている坂上博俊さんは生まれた時、左耳が耳たぶしかなかった。小耳症という先天性の病気だ。

小学生の時、全身麻酔で3回の手術を受け、外耳道を開けて人工鼓膜を埋め込んだことで、音が聞こえるようになる。その体験が坂上さんの進路を決めることになった。

「耳のせいで小さいころからいじめられることが多かったです。しかし手術によって見分けがつかないくらいきれいな耳を作ってもらい、医療に恩返ししたくて医師になりたいと思いました。そこから勉強を頑張ったのですが、医学部へは今一歩及びませんでしたが、しかし大学進学を前に近畿大学から勉強の頑張りを認めてもらい、特待生での入学の声がかかったのです。耳の手術で親に経済的負担をかけていたので、授業料免除がありがたく、これに応じました」

「実学教育」を学んだ近畿大学への恩返し

4年間の授業料免除で学びの機会を与えてくれた大学への恩返しへの気持ちも強くある。プラクスの「医療用家系図システム」は近畿大学と共同権利特許を取得。研究成果の社会還元によって大学の教えである「実学教育（社会に役立つ研究）」を実現することで、良い産学循環を構築することが使命だと坂上さんはいう。ちなみに、「プラクス」という社名も実学を意味する「PRACTICAL SCIENCE」から採っている。そんな坂上さんの存在は「近大マグロの次を創る男」として注目されている。

「ここまで」と自分が思っていました。そこからです。自分の限界を決めることができるのは自分だけです。坂上さんは自身と仲間の力を信じ、社会に役立つための研究を続けている。

「人の役に立つため」の研究

「親戚に糖尿病の人がいるから、気を付けなさい」「うちはがんの家系だから、リスクが高い」。そんな会話を

聞くことがよくある。しかし、その情報を踏まえて何か行動に移したという人は少ないのではないだろうか。

坂上さんは、近畿大学理工学部情報学科に在籍していた時に遺伝家系図という研究テーマと出合った。

「遺伝家系図のテーマを知ったとき、『これで医療に恩返しができる！これこそ僕がやるべきことだ』と思いました」

その思いで遺伝家系図を電子カルテなどのプラットフォームに落とし込む「医療用家系図」の研究を進め、近畿大学大学院総合理工学研究科へ進学した。

大学発のベンチャーとして道を切り開く

医療用家系図はさらなる開発が望まれていると感じ、近畿大学と相談して近大マグロ、バイオコークスに続く大学発ベンチャーとして支援を受けながら起業を目指すことになった。

「大学在籍時、起業しよう」と大学のリエゾンセンターに相談行くと、学生発のベンチャーは過去に例がないため大学としてすぐ何か支援することはできないが、リエゾンセンターを活用

したり、先生たちを頼ったりすることはない、と言われました。あわせて大学発ベンチャーとして、大学と共有している特許の使用料はとも安くしてもらっています。大学側の支援の条件としては、学生（大学院生）のうちに起業することでした。資金をためるため月曜から木曜まで会社勤めをして、金・土は大学院の授業。働きながら研究と起業準備をするのは大変でした」

起業への準備として、事業計画、創業手続き、採用、資金など、何もかもに苦労したという坂上さん。しかし、何としても起業を実現したいという思いから努力を重ねた。こうして、2017年9月にプラクス株式会社を設立。大学の後ろ盾があることで病院や医師らに話を聞いてもらいやすく、研究成果を現場へ反映できるというメリットもあった。大学との連携があったからこそ、成し遂げたい起業や研究・開発が実現できた。

遺伝子を未来に残すということ

医療用家系図とは具体的には何か。

私たちは、目や鼻の形、瞳の色、身長、体質など、両親から遺伝子を半分ずつ受け継いで生まれてくる。それはすなわち、医学的な情報も受け継いでいるということだ。しかし、医学的な情報は目に見えない。両親のものでさえどのような情報があるのか不明確だ。また先祖代々の情報は残っておらず、私たち自身の情報を子孫に残すこともできていない。そこで生まれたのが医学的に家系図を作成するシステム、「未来につながる電子カルテ」である医療用家系図だ。

「たとえば、プラクス創業時に事務所を構えていた大阪府八尾市は枝豆の生産で有名ですが、枝豆を頻繁に食べているからこんな病気が少ない」といった地域性を見いだせるかもしれない。あるいは、薄毛になりやすい頭髪や乾燥肌などについても、集積した情報をビッグデータとして活用できれば面白い結果が出る可能性があります。医師からは家庭環境もデータに入れていると言われており、まだまだ拡充できる余地があります。保険会社や健康企業宣言の会社と連携して、医療費や保険料の割引を受けられるよう

にすることも可能かもしれません。さまざまな形で患者さんの利益につながるよう取り組みたいと思っています」

医療用家系図を普及させることで、新しい予防医療を提供し、人々が健康で長生きできる社会の実現を目指しているのがプラクスだ。最初の目標として「全ての人類を一つの家系図でつなぐこと」を掲げ、10年後、1億人に遺伝医療の提供ができる社会をつくっていかうとしている。

関西学院大学ヒューマン・サービス支援室 岡秀和

坂上博俊さん

1993年生まれ。左耳に小耳症という先天性の病気を患っており、治療のために3度の全身麻酔手術を含め多くの入院・通院を繰り返した。現在は、人工鼓膜により聴力がある状態に。医療分野へ何か恩返しできないだろうかと考え、近畿大学大学院総合理工学研究科で研究をしながら起業し、プラクス株式会社を立ち上げた。



古本 冬営舎

松 江市中心部、殿町の路地奥にたたずむ市内で数少ない古書店、冬営舎。開店から8年後の2023年初夏、すぐ近くの創業地から現在地に移転し、仮営業を続けている。古民家を活用した店内は、ことなく落ち着き、ずいぶん前からここに存在しているかのよう。訪れた日の先客だった常連のOさんは、おいしそうにテーブルでビールを飲んでた。古書店なのにコーヒー、ビールなどのドリンクがあり、閲覧用の本も置くスタイルは以前の店から変わらない。

仮営業中の店内には、店主のイノハラカズエさんの定位置であるレジを挟み、随筆をはじめとした文学、食や美術、工芸にかかわる本を中心にした本棚スペースと、テーブル席から中庭を眺められるくつろぎスペースが配置されている。今、なじみの客たちが中庭を隔てた離れに手を入れていて、将来はそこがメインの売り場になる予定だ。

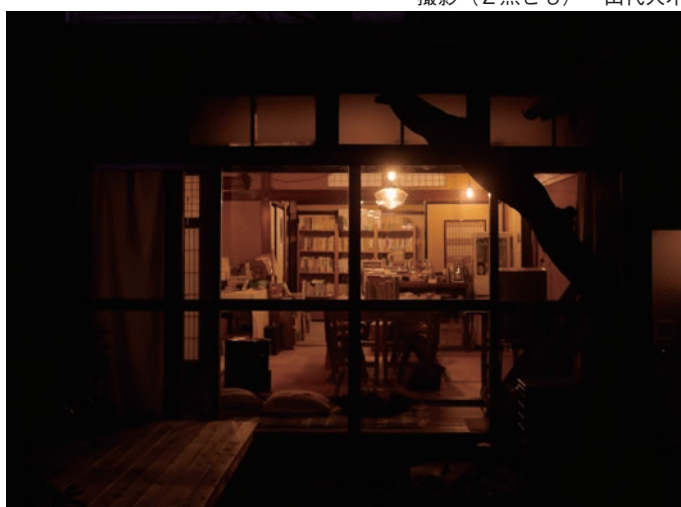
居合わせた客同士が本も買わずドリンクも飲まず、長時間談笑して帰る日も珍しくない。しかし本を買うだけの普通の古書店とは違い、冬営舎には、ここで出会った人から得られるとおきの情報がある。人々との結びつきから生まれる魅力的な事象がある。たとえば小泉八雲の『雪女』を出雲弁に「翻訳」する会。ひとりの常連客の呼びかけから、いろいろな世代の客が参加して定期的に店内で集まりをもち、4年かけて『出雲弁で「雪女」』を出版するまでになった。店内でも販売されているA5判59ページの冊子には、熱い議論のようすを描いたコラムも併載する。明るく笑い合うイノハラさんと客たちの声を店内の片隅でページを繰りながら聞いていると、郷土に息づく文化のいとも、人のつながりの面白さが感じ取れた。

編集委員 村岡正司

撮影(2点とも)＝山代大木

古本 冬営舎

島根県松江市殿町61
電話 0852-67-1653
営業時間
平日 13時過ぎから
20時くらいまで
土日祝 12時過ぎから
19時くらいまで
定休日 不定休



『松江日乗 古本屋差し入れ日記』
イノハラカズエ(冬営舎) 著
ハーベスト出版、2022年9月 1650円(税込)



「市民活動家」は気恥ずかしい だけど、こんな社会で だいじょうぶ?

小竹雅子 著
現代書館、2023年10月
1980円(税込)

「運動は事務の堆積である」

本書を読んで思わずこの言葉が脳裏をよぎった。女性参政権獲得に尽力した20世紀の運動家・市川房枝の名言である。

本書は約40年間、複数の団体の活動を事務方として支え続けた著者の履歴をふりかえりつつ、音楽やスポーツ等プライベートな話題から中絶や死といったハードなテーマにも踏み込むなど、バラエティーに富んだエッセーとなっている。

著者は1981年から10年間、「障害児を普通学校へ・全国連絡会」で会報の発行や

電話対応などに従事。その後、「市民福祉サポートセンター」での電話相談などを経て、2003年より「市民福祉情報オフィス・ハスカップ」を主宰、介護保険制度をテーマにメールマガジンの配信や連続セミナーの企画、社会保障審議会の傍聴、それに大臣や議員への要望書提出など精力的に活動している。

自他ともに「怒ることもめったにないかわりに、怒ったときはなかなかボルテージが下がってこない」タイプと認める。原動力は介護保険制度が「利用者本位」を掲げながら、その実態がかけ離れていることに対する憤りにあ

る。本書でも、介護を必要とする人の支援を目的に制度を導入したのだから、政府支出の抑制を図るため介護が必要とならないよう「予防」に注力するよりも、当事者への支援やその家族など介護する人の負担を軽減することがより重要ではと強く訴えている。

膨大な資料を読みこなし、難解な専門用語が飛び交う社会保障審議会の傍聴を粘り強く20年間も続け、おかしいと思えばとことん政治家や官僚にも質問や提言を繰り返す。そんな著者のボルテージは制度導入以来、上がりっぱなしである。

編集委員 阿部 太極

富 土山やお日様とともに温かく見守っているような優しいカメラのまなざしが、木綿(コットン)を育て、収穫する障害者らの姿を映す。富士山を望む山梨県の甲府盆地中央にある障害福祉サービス事業所「みらいファーム」。ここでは20人が生活介護事業や就労継続支援事業を利用している。収穫した綿から種をとるのが得意な人がいれば、手織り機でカタン、コットンと織り上げるのが得意な人もいる。一方で、ある人は花を育て、またある人は緻密な絵を描くことに没頭している。中には気分が晴れないまま1日を過ごす人もいる。みらいファームでは、皆がそれぞれのペースや考え方で自由に過ごしているのだ。みんなげに一生懸命。真綿のようにふかふかな、柔らかなぬくもりが画面全体から伝

わってくる。彼らの素朴で優しいリズムが映画のタイトルにもなっている。しかし、なぜ監督はこの映画を作ろうとしたのだろうか。そこが唯一の疑問だった。本作の監督・青柳拓さんは、2021年に前作『東京自転車節』を制作している。自らがウーバーイーツの配達員となつてコロナ禍の東京を駆け巡るその様子を、全編スマートフォンとGoPro(ヘルメットカメラ)で撮影し、現代社会の不合理を見事に描いた傑作だ。彼はこの体験を通じて、自由や生活の質のためよりも経済成長が優先される労働搾取の構造に強い疑問を持ったという。もともと青柳さんのお母様はみらいファームの職員で、その関係で彼自身もここは幼いころから慣れ親しんだ場所であった。利用者とも友達関係にある。「みら

いファームは、人間そのものを受け入れてくれるような場所だ」と青柳さんはいう。ずっと以前からいつの日かこの場所を撮りたいと思っていたそう。その目標は『東京自転車節』を経て現実のものとなった。実際に本作を観ていると、青柳さん本人が回すカメラの視線を通してその思いがよく伝わってくる。ひとりの人間として向き合うというところに、障害があるとかないとかいうのは関係ないんだと。ここにいていいんだと。観ている僕も居場所が生まれるような心持ちになる。きっと監督はそれを伝えたいがために、この映画を手段としたのではないかと考えると、不思議に思っていた監督の意図が腑に落ちた。



監督・撮影：青柳拓
撮影：山野日光政、野村真衣菜 編集：辻井潔
構成・プロデューサー：大澤一生
製作：水口屋フィルム、ノンデライコ 配給：ノンデライコ
2023年 | 日本 | 95分 | カラー | ドキュメンタリー
2月10日より全国で順次公開

今月の作品 『フジヤマコットン』

●今月の館主

いまい ともき
今井 友樹

1979年岐阜県生まれ。日本映画学校(現・日本映画大学)卒業後、日本各地の基層文化を映像で記録・研究する民族文化映像研究所に入所。所長の姫田忠義に師事し、映像制作に関わる。現在、株式会社工房ギャレットの代表を務める。



イラスト：杉浦 健

私の市民活動 Library (第60回)



弱さを愛せる社会へ
分断の時代を超える
「令和の幸福論」

野澤和弘 著
中央法規出版、2023年9月
1870円(税込)

本 書は、長年、社会部記者として報道現場で活躍する一方、重度の知的障害・自閉症のある子の父としての発信も続けてきた著者が、「過度に生産性を重んじ、自己責任を求める社会の風潮」に立ち向かう視点を示した良書だ。

第1章で「阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件の翌年、小さなやさしい風が吹いた／薬害エイズ訴訟の和解、らい予防法、優生保護法の廃止、障害者虐待の報道は、いずれも1996年に起きた／社会が崩落していくなかで、私たちは自らのなかにある弱さを見つめ、やさしさを抱きしめようとした」「報道の現場で私は確かに感じた」とある。

そうであったかと当時を思い起こす。

しかし次章以降、重い記述が続く。凄惨な少年事件、それを力で抑え込もうとする厳罰化、少年事件が激減するものの子どもたちのエネルギーは内向化し、いじめ、自殺、不登校、ひきこもりが増加。一方、バブル崩壊後、大人たちも追い詰められていく。

そんななかで津久井やまゆり園事件が起き、ALS患者囑託殺人事件が起きた。これらを特殊な事件と捉えてはならない。「障害者や難病患者といった社会的弱者にやさしい風は、逆に崩れ落ちていく層の嫉妬や怨嗟をかき立て、歪んだ社会観から迫害や淘汰」へ走らせる。「現役世代

や未来を担う世代の精神的な地盤沈下がこの国の直面している危機の本質」だからだ。

そこで著者は、まず「柔軟で包容力のある社会の象徴であり、それを実現する原動力として、当事者のもつ可能性に目を向けるべきだ」と説く。さらに「人間は素朴な幸せがあれば生きていける。それを教えてくれるのが重度障害者たち」「身近にある小さな幸せのありがたさを感じるのがとても難しい時代だからこそ、重度の知的障害者や寝たきりに近い重複障害者がこの社会に必要なのだ」とも。「社会の価値観を根底から変えることが、やはり必要なのだ。」

編集委員 早瀬 昇